



TITLE:

# 学生相談機関におけるインフォームド・コンセントについて：海外の大学の動向を概観して

AUTHOR(S):

和田, 竜太

---

CITATION:

和田, 竜太. 学生相談機関におけるインフォームド・コンセントについて：海外の大学の動向を概観して. 京都大学学生総合支援センター紀要 2016, 45: 21-34

ISSUE DATE:

2016-03-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/215858>

RIGHT:

# 学生相談機関におけるインフォームド・コンセントについて

——海外の大学の動向を概観して——

和田 竜太\*

## 1. はじめに

医療の分野はもとより、心理臨床の場においても、来談者との間でインフォームド・コンセント（注：インフォームド・コンセントには様々な訳語が存在するが、本稿では「納得のいく説明と同意」（出口，2009）と捉えることとする）を行うことは、来談者がどのようなサービス、あるいはどのような支援の提供を受けるかについて自ら決定するためにも非常に重要なものと考えられる。心理臨床の場におけるインフォームド・コンセントについて、たとえば、日本臨床心理士会による倫理綱領（一般社団法人日本臨床心理士会，2009）では、その第4条で次のように示されている。

### 第4条 インフォームド・コンセント

会員は、業務遂行に当たっては、対象者の自己決定を尊重するとともに、業務の透明性を確保するよう努め、以下のことについて留意しなければならない。

- 1 臨床心理業務に関しての契約内容（業務の目的、技法、契約期間及び料金等）について、対象者に理解しやすい方法で十分な説明を行い、その同意が得られるようにする。
- 2 判断能力等から対象者自身が十分な自己決定を行うことができないと判断される場合には、対象者の保護者又は後見人等との間で十分な説明を行い、同意が得られるようにする。ただし、その場合でも、対象者本人に対してできるだけ十分な説明を行う。
- 3 契約内容については、いつでもその見直しの申し出を受け付けることを対象者に伝達しておく。
- 4 自他に危害を与えるおそれがあると判断される場合には、守秘よりも緊急の対応が優先される場合のあることを対象者に伝え、了解が得られないまま緊急の対応を行った場合は、その後も継続して対象者に説明を行うよう努める。
- 5 対象者から、面接の経過及び心理査定結果等の情報開示を求められた場合には、原則としてそれに応じる。
- 6 面接等の業務内容については、その内容を客観的かつ正確に記録しておかなければならない。

---

\* 京都大学学生総合支援センター カウンセリングルーム

この記録等については、原則として、対象者との面接等の最終日から5年間保存しておく。

- 7 対象者以外から当該対象者についての援助を依頼された場合は、その目的等について熟考し、必要であれば対象者を含めた関係者との話し合いを行った上で、対象者及び関係者全体の福祉向上にかなうと判断できたときに、援助を行う。

また、学生相談機関におけるインフォームド・コンセントについては、日本学生相談学会（2013）による『学生相談ガイドライン』の「6 倫理」の項において、次のように示されている。

## 6 倫理

### (4) 自己決定の尊重とインフォームド・コンセント

#### インフォームド・コンセントが必要な場合

自己決定はカウンセリングの重要な要素である。学生相談機関およびカウンセラーは、利用者に面接の進め方について、相談内容が守秘されることについて、また、どのような場合に秘密保持に限界が生じるかについて説明して、インフォームド・コンセントを得る。また、学内教職員、家族等の関係者と連携して援助することが利用者にとって利益になると判断される場合には、相談で語られた情報をどの程度まで共有してもらうかについて、利用者と話し合い、インフォームド・コンセントを得て援助を行っていく。このように利用者の自己決定を尊重し、利用者からの合意を得て援助を行っていくことが重要である。

このように、心理臨床の場において、また学生相談機関においても、来談者との間でインフォームド・コンセントを行うことは重要なものとされている。もちろん、インフォームド・コンセントは、単なる手続き上の事柄としてあるのではなく、それそのものが来談者とカウンセラー（セラピスト）との間の面接のプロセスの重要な一要素であると言えよう。しかしながら、どのようにインフォームド・コンセントを行うかについては、いまだそれぞれの場、あるいはそれぞれの機関、さらにはそれぞれのカウンセラー（セラピスト）によって試行錯誤されているのが現状ではないだろうか。インフォームド・コンセントを構成する要素として、学生相談機関という場においてはどのようなことが求められるのか、ここで今一度考えたい。

インフォームド・コンセントを構成する要素を考えるにあたって、本稿では、日本よりもインフォームド・コンセントという考え方がより根付いていると考えられる海外、特に欧米の大学の学生相談機関におけるインフォームド・コンセントの現状について概観することで、その一つの手がかりを得る機会としたい。

（なお、インフォームド・コンセントの歴史的経緯については、Faden & Beauchamp（1986/1994（日本語訳））で詳しく述べられている。）

## 2. 海外の心理臨床実践におけるインフォームド・コンセントの位置づけについて

海外の心理臨床実践におけるインフォームド・コンセントの位置づけについて捉える一助として、アメリカ心理学会（American Psychological Association）のAPA倫理綱領（コード）（Ethical principles of psychologists and code of conduct）において、インフォームド・コンセントがどのように示されているかを以下に見てみたい（APA, 2010、水野, 2006）。

## 3. 人間関係

（略）

### 3.10 インフォームド・コンセント

- (a) 心理士が、リサーチを実施する時、あるいはアセスメント、カウンセリング、またはコンサルテーションなどのサービスを直接的に、または電子送信やその他のコミュニケーション方法で提供する時、心理士はその人（単数、複数）が適切に理解できる言語を使用してインフォームド・コンセントを得ること。但し、法や行政規則あるいはこの倫理綱領によって規定されていることで、インフォームド・コンセントなしでこのような行為をすることが義務づけられている場合を除く。
- (b) 法律的にインフォームド・コンセントすることができない人には、それにもかかわらず心理士は、(1)適切な説明を提供し、(2)その個人の同意を求め、(3)このような人の好みや最良の利益を考慮し、そして(4)法による代理人による同意が認められ、あるいは必要とされるならば、法的な代理人より適切な許可を得ること。法による代理人の同意が許可されていない場合、あるいは法によって必要とされていない場合には、心理士は個人の権利と福祉を保護するために道理に適った手段を講じること。
- (c) 心理的なサービス提供を法廷によって命じられた場合、さもなければ強制された場合、心理士は実施する前にこの個人に想定されるサービスについて情報を与え、サービスは法廷命令かどうか、あるいは強制か、また秘密保持の限界について情報を与えること。
- (d) 心理士は、文書あるいは口頭による同意、許可、そして公式な同意を書類にして記録すること。

上記の内容は、先述した日本臨床心理士会の倫理綱領や日本学生相談学会のガイドラインでふれられているインフォームド・コンセントの内容に比べると、より具体的であり、また法律との関係、さらにはどのように同意を得、さらにはどのように記録として残すかまで踏み込んで示されている。このあたりは、日本よりもはるかに契約社会であり、さらには訴訟社会であるアメリカ（あるいは欧米）という背景もあるかもしれないが、しかし、インフォームド・コンセントに関する歴史の長さゆえに様々な事象が起こる中でシビアに検証・検討が行われてきた結果という面もあろう。インフォームド・コンセントをめぐる日本よりも長きにわたって検証・検討が行

われてきた海外の国々において、そうした地の大学の学生相談機関では、具体的にどのような形でインフォームド・コンセントが行われているのであろうか。

### 3. 海外の主要大学の学生相談機関における守秘、および個人情報の保護について

海外の大学の学生相談機関におけるインフォームド・コンセントについて概観するにあたって、次のような手段でアプローチすることにした。まずは、イギリスの大学評価機関Quacquarelli Symonds社が毎年9月に公表している世界の大学のランキング（QS世界大学ランキング）を用いて、そのトップ10大学までの学生相談機関のホームページをチェックし、ホームページ上にインフォームド・コンセント、あるいはインフォームド・コンセントと密接に関わる守秘・情報の保護に関する情報・資料等が掲載されているかを調べた。なお、QS世界大学ランキング（2015-2016）のトップ10大学は以下の表1の通りである。

表1. QS世界大学ランキング（2015-2016）のトップ10大学

| 順位 | 大学名                    | 国名   |
|----|------------------------|------|
| 1  | マサチューセッツ工科大学(MIT)      | アメリカ |
| 2  | ハーバード大学                | アメリカ |
| 3  | ケンブリッジ大学               | イギリス |
| 3  | スタンフォード大学              | アメリカ |
| 5  | カリフォルニア工科大学(Caltech)   | アメリカ |
| 6  | オックスフォード大学             | イギリス |
| 7  | ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL) | イギリス |
| 8  | インペリアル・カレッジ・ロンドン       | イギリス |
| 9  | スイス連邦工科大学チューリッヒ校       | スイス  |
| 10 | シカゴ大学                  | アメリカ |

まず、QS世界大学ランキングのトップ10大学のホームページを見てみると、それぞれの大学の学生相談機関ともに、ホームページ上に掲載している情報は、日本の大学の学生相談機関に比べるとはるかに情報量が多く、内容は多岐にわたっている（海外の主要な大学の学生相談機関のホームページの特徴に関しては、伊藤（2007）や杉原（2011）で詳しく述べられている）。そうしたホームページ上に掲載された情報の中には、相談機関の場所や開室時間、予約方法といった相談機関の基本的な情報とともに、どのようなサービスが提供されているか（個人カウンセリング、グループ・カウンセリング、ピアサポート、教員に対するコンサルテーション、セルフ・ヘルプに関する情報etc）、カウンセリングではどのような内容・問題が扱われるのか、カウンセリングがどのようなプロセスをたどりカウンセリングによってどのようなことが期待されるのか、守秘に関しての情報（合わせて守秘の限界に関してもふれられている場合がほとんどであった）等、当の学

生相談機関が提供できるサービスや支援について、ホームページを通して幅広く情報開示が行われていた。特に、守秘に関する情報は、インフォームド・コンセントにおいて重要なポイントとなる事柄であり、そうした内容についてもすでにホームページ上で示しているのである。

守秘に関する情報については、QS世界ランキングのトップ10大学のうち、スイス連邦工科大学チューリッヒ校を除いた9大学の学生相談機関のホームページ内で、「Confidentiality」という項目で掲載されていることが確認された。(なお、各大学の学生相談機関のホームページ上の掲載内容については、筆者のリサーチの拙さ・不十分さもあり、本稿におけるリサーチによって確認できなかったものの、何らかの形で掲載されている可能性があることを申し添える。)掲載されている分量、詳細さ度合にはある程度の違いが見られるが、基本的な内容はどのホームページで共通していた。その一例として、ケンブリッジ大学の学生相談機関 (University Counseling Service) のホームページに掲載されている守秘に関する項目 (Confidentiality, Data Protection & Complaints : <http://www.counselling.cam.ac.uk/general/confidentiality>) について筆者が訳したものを以下に引用して見てみたい。

### 守秘、情報の保護、苦情の申し出について

#### 倫理綱領および守秘に関する指針

ケンブリッジ大学カウンセリング・サービスは、英国カウンセリング・心理療学会 (BACP) の「カウンセリングと心理療法の優れた実践のための倫理的枠組み (Ethical Framework for good Practice in Counseling and Psychotherapy)」にもとづいて業務を行います。相談申込書に記載された内容や、カウンセリングの内容に関する秘密は全て守られます。通常の場合においては、利用者の許可なしにはカウンセリング・サービスから外に情報を伝えることはありません。

非常にまれな状況において、私達は守秘義務を解除する権利を有しています。それは、利用者の自傷他害のおそれが重大かつ切迫している場合、あるいは重大な違法行為が認識された場合に限られます。このような状況においても通常、私達はまず利用者と話し合うよう努めます。この指針に関して何か質問があれば、どうぞお問い合わせください。

#### 1998年データ保護法 (筆者注：1998年に制定されたイギリスにおける個人情報保護法)

カウンセリング・サービスは、データ保護法の下で業務を行います。利用者が相談申込書に記載した事実に基づく情報や、カウンセリングに来談した日付は、コンピューターのデータベースに保存されます。私達はこのデータを使用して、カウンセリング・サービスの使用状況に関する匿名の統計情報にまとめます。またカウンセラーは面談の記録を保管し、利用者との面談に役立てています。より詳細な情報が必要な場合にはお尋ねください。なお、学生サービスのデータ保護責任者は、〇〇 〇〇 (個人名) です。

#### 苦情の申し出



カウンセリング・サービスは、大学内の手続きやカウンセラーが属している専門機関の手続きに加えて、カウンセリング・サービス独自の苦情に関する指針を定めています。その詳細について知りたい場合には、カウンセラーに直接お伝えされるか、またはカウンセリング・サービスの受付にご連絡ください。

ここで、海外の大学の学生相談機関のホームページに掲載されている守秘や情報の保護に関する記述の特徴として2点指摘したい。一点目としては、上記のケンブリッジ大学の学生相談機関のホームページ内でも記載されているが、守秘に関して、ただ「相談の秘密は守られます」というような形で記載しているのではなく、どんな法律、学内の規程、学会等の専門的組織における規程や綱領等を根拠としているのか、ということについて具体的にふれていることである。また、その特徴として、アメリカの大学においては、州法や連邦法にもとづいていることにふれており、一方イギリスの大学においては、リサーチしたQS世界ランキングトップ10に含まれるイギリス国内の大学全てにおいて、データ保護法等とともに、英国カウンセリング・心理療法学会（BACP）の「カウンセリングと心理療法の優れた実践のための倫理的枠組み（Ethical Framework for good Practice in Counseling and Psychotherapy : [http://www.bacp.co.uk/ethical\\_framework/](http://www.bacp.co.uk/ethical_framework/)）（以下、「倫理的枠組み」）」にふれ、それにもとづいていることを述べている。英国カウンセリング・心理療法学会の「倫理的枠組み」は、イギリス国内で、学生相談機関における活動のみならず、広くカウンセリング・心理臨床活動を行う場合の基本的な倫理的基盤とされているようである。特徴の二点目としては、学生相談機関の利用者が学生相談機関、あるいはカウンセラーに対して苦情（Complaints）がある場合の申し出の方法に関する記述がなされている場合が多いことである。筆者が確認できた範囲では、トップ10大学のうち、上記ケンブリッジ大学のほか、ハーバード大学、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン、インペリアル・カレッジ・ロンドンの各大学の学生相談機関のホームページ内で「Complaints」という項目が設けられており、苦情がある場合、利用者が誰に、あるいはどこに、どのような形で（口頭で、あるいは書面で等）申し出たらよいかについて記述がなされていた。この二点に代表されるように、海外の大学の学生相談機関では、そのホームページ上で守秘、個人情報の保護、また苦情がある場合の申し出方法に至るまで、かなり詳細に記載していることが分かる。

また、個人情報の保護という点に関して付け加えると、いくつかの学生相談機関においては、学生相談機関利用に関わる情報を機関外に伝える際の同意書（承諾書）がフォーマットとして用意されており、それがホームページ上に掲載されている場合も散見された。例えば、マサチューセッツ工科大学の学生相談機関（Mental Health & Counseling, MIT Medical : <https://medical.mit.edu/services/mental-health-counseling>）においては、利用者の医療情報やメンタルヘルスに関する情報を他の支援提供者や機関等に提出する場合に、利用者に対して「MIT Medical による保護された健康に関する情報（メンタルヘルスに関する記録）の提供に関する承諾書

(Authorization for Release of Protected Health Information (Mental Health Record) by MIT Medical)」にサインしてもらうフォームが掲載されている。また、カリフォルニア工科大学の学生相談機関 (Caltech Counseling Center : <https://counseling.caltech.edu/>) でも同様に、「情報の提供への同意書 (Consent for Release of Information Form)」が利用者にサインしてもらうフォームとして示されている。いずれも、どういった先 (個人、機関等) に情報を提供するかについて具体的に記入した上で、記入された先に限って情報を提供することに同意 (承諾) する形になっている。これも個人情報に関するインフォームド・コンセントの一つと言え、このような形で書面による同意を取って対応していることが分かる。

ところで、QS世界大学ランキングのトップ10大学の学生相談機関のホームページを見てみたところ、今述べた個人情報を機関外に伝える場合など、個々の事象に関するインフォームド・コンセントの様子はうかがえたものの、たとえば相談開始前、あるいは相談開始初回に行われるような学生相談機関に利用に関わる全般的なインフォームド・コンセントについての情報やそうした記載は確認できなかった。もちろん、ホームページ上に掲載しているばかりではなく、実際には相談活動の中でインフォームド・コンセントを何らかの形で行っていることが考えられるが、本稿のリサーチの仕方ではそれにアプローチすることはできなかった。そこで、次に、“university, counseling, informed consent” というワードでネット上で検索を行い、ホームページ上で、学生相談機関の利用に関する全般的なインフォームド・コンセントに関する情報、資料等を掲載している海外の大学の学生相談機関を調べた。いくつかの大学の学生相談機関のホームページ上に掲載されているインフォームド・コンセントのフォーマットが出てきたが、その中から、リッチモンド大学 (University of Richmond, アメリカの私立大学) とロチェスター大学 (University of Rochester, アメリカの私立大学) をサンプルとして、次の項で見たい。

#### 4. 海外の大学の学生相談機関におけるインフォームド・コンセントについて

まずは、リッチモンド大学の学生相談機関 (Counseling and Psychological Services(CAPS) : <http://wellness.richmond.edu/offices/caps/>) のホームページ上に掲載されているインフォームド・コンセントのフォームについて筆者が訳したものを以下に示す。

##### **CAPSが提供するカウンセリングサービスに関するインフォームド・コンセント**

緊急の、あるいは危機的状況を除いて、CAPSのスタッフにはサービスを開始する前に、利用者からのインフォームド・コンセントを得る法的・倫理的義務があります。

##### **守秘について**

CAPSは守秘に関する指針を定めています。全てのサービスは、アメリカ心理学会の「サービス提供者のための倫理原則・基準 (The Ethical Principles and Standards for Service Providers of the American Psychological Association)」, およびバージニア州のライセンス法



に則って提供されます。

サービスに登録した事実はもちろん、面接の中で明らかにされた全ての情報についての秘密は守られます。また、全ての情報は、利用者の書面による許可なしにはCAPS外のいかなる人にも公開することはありません。ただし、以下の状況は除きます。a)法律にもとづいて開示が請求された場合、b)利用者に差し迫った自傷他害のおそれがある場合、c)利用者が自らの身を守ったり、基本的な欲求を満たす能力が欠如しているために、利用者自身に深刻な損害が発生する危険性が高い場合。(b)と(c)の場合、CAPSのスタッフは、利用者に入院を求めたり、利用者を保護する助けとなるふさわしい人（例えば、学生能力開発部門の副代表、学部長、大学内の警察、利用者の親、危機対応チームのメンバー等）に連絡する場合があります。

守秘情報の使用や開示が行われる場合についてのより詳細な情報が「CAPS Privacy Practice Notice」に記載されています。必ずご一読ください。

### **カウンセリングはどのように行われるのか？**

カウンセリングは、相互的な、かつ共同して行う作業です。利用者とカウンセラーは、利用者が目指す目標に向かって一緒に取り組みます。カウンセラーは利用者を変化させることはできません。カウンセラーはあくまで促し手としての役割を担います。自らを変えるのは利用者にしかなできません。利用者には自身が抱えている問題や事柄に取り組むことに努める責任があります。カウンセラーは、利用者のこうした過程の助けとなるよう尽力します。

カウンセラーとともに取り組む際、利用者がカウンセラーとの面談の中で能動的な役割を果たすことが重要です。例えば、利用者が以下のようなことを行うことは利用者自身にとって有益でしょう。

- ・次の面談までの間に、カウンセラーと話し合っていたことについて考えること。
- ・カウンセラーとの間で行うことを約束した取り組みを継続すること。
- ・カウンセラーと話し合うために提示した事柄や話題について主導的な役割を担うこと。

利用者とカウンセラーがお互いを信頼し、誠実さと敬意を基盤とした良好な関係を築くことが、カウンセリングを最も良好な取り組みへと導きます。カウンセラーとの間で問題や難しさを感じた際には、ぜひカウンセラーとそのことについて話し合ってみてください。利用者とカウンセラーとの話し合いによっては、利用者が他のカウンセラーとカウンセリングを行うことが望ましいという結論に至る場合もあります。

### **カウンセリングの効果**

必ずしもカウンセリングによって明確な成果がもたらされるとは限りません。カウンセリングにはある程度リスクも伴います。例えば、カウンセリングの結果として関係が変

化し、逆に落ち着かなく感じられることがあるかもしれません。また、カウンセラーとトラウマに関わる事柄を話すことで、より張りつめた気持ちを感じるかもしれません。カウンセラーは専門的な技能を用いて利用者の不安や起こりうるリスクに対処するべく最大限努めます。

### 本同意を取り消す権利

利用者には書面によって本同意を取り消し、CAPSにおけるサービスを打ち切る権利があります。その際、CAPSのスタッフは、利用者の求めに応じて、代わりとなる大学内外の支援資源を見つけることができるようサポートを行います。

続けてもう一つ、ロチェスター大学の学生相談機関（University Counseling Center (UCC) : <https://www.rochester.edu/ucc/>）のホームページ上に掲載されているインフォームド・コンセントのフォームについて筆者が訳したものを以下に見てみたい。

### アセスメントと治療に関するインフォームド・コンセント

氏名 \_\_\_\_\_ 生年月日 \_\_\_\_\_  
ID \_\_\_\_\_

私は、ロチェスター大学・学生健康保険の加入者として、カウンセリングセンター（University Counseling Center, UCC）の様々なサービスを受ける資格があることを理解しています。私が受けるサービスの種類や範囲は、最初のアセスメントと話し合いによって決定されます。アセスメントの目標は私にとって最良の治療の道筋が決定されることです。通常、治療は数週間にわたって行われます。相談の予約を無断キャンセルしたり、24時間前までにキャンセルの連絡をしなかった場合には、その分だけ私の面談の総回数が減ることになることを理解しています。

カウンセリングセンターの臨床医（the clinicians）との間で共有される全ての情報は秘密が守られ、私の同意なしには開示されないことを理解しています。私のカウンセリングセンターでの治療記録は電子化され、学内医療サービス（University Health Service, UHS）の治療記録の一部として安全なサーバーに保管されます。UHSの提供者がカウンセリングセンターの記録にアクセスしたり、あるいは逆にカウンセリングセンターのサービス提供者がUHSの記録にアクセスするのは、投薬治療の照会、摂食障害の評価などといった基本的な情報を把握する場合のみに行われます。それ以外の状況においては、書面による承認によって情報開示のための同意を行うものとします。さらに、情報開示の制限について口頭での同意を行うことがあります。また、私は、この守秘義務には以下のような例外があることを理解しています。

A. 自分自身あるいは他人に対する差し迫った危険がある場合には、臨床医は倫理的

な観点からそうした危険を防ぐために必要な措置を講じます。

B. 子どもあるいは高齢者が性的、あるいは身体的に虐待を受けている、あるいは虐待の危険性が疑われる場合には、臨床医は子どもを守り、適切な機関に通報するための措置を講じる法的義務があります。

C. 医療記録に対して拘束力のある裁判所からの命令が発せられた場合には、臨床医や当局 (the agency) はその求めに従うことが法律によって義務づけられています。

私は、様々な精神医療専門職員 (mental health professionals) がカウンセリングセンターのサービスを提供しており、そのうちの一部は教育訓練中であることを理解しています。教育訓練中の専門職員は全て資格をもったスタッフにスーパーヴァイズされています。カウンセリングセンターのスーパーヴァイザーのリストは裏面をご覧ください。

私は、心理療法、あるいは投薬治療によって著しい効果がもたらされる場合に、同時にリスクもあることを理解しています。心理療法は不快な考えや気持ちを引き起こしたり、過去の嫌な記憶を想起させたりすることがあります。投薬治療は不必要な副作用があるかもしれません。

私は、通常カウンセリングセンターの治療者 (therapists) が治療面接場面をビデオ録画することを理解しています。私は、その記録映像がカウンセリングセンター内で教育的な目的にのみ用いられ、それに関わる専門職員が面接の守秘を尊重し秘密を守ることを理解しています。私は、録画されたテープがカウンセリングセンターの所有物であり、定期的に削除されることを理解しています。私はまた、たとえビデオ録画されることに反対したとしても、カウンセリングセンターとの関係が脅かされたり、治療者を変更せざるを得ないことには決してならないことを理解しています。

この同意書やカウンセリングセンターが提供するサービスについて疑問がある場合には、そうした疑問について治療者と話し合うことができます。私は上の記載内容を読み、理解しました。私は、カウンセリングセンターが提供する査定 (evaluation) と治療を受けることに同意します。私は、いつでも治療を辞めることができることを理解しています。

**もし本学の教職員から紹介された場合にはこの同意書の裏面もご覧ください。**

署名\_\_\_\_\_ 日付\_\_\_\_\_

(筆者注：これより以下裏面)

**この項目は、本学の教職員から紹介された方のみご回答ください。**

あなたにカウンセリングを勧めた方に、あなたが来談したことを伝えてもよいですか？

もし伝えてもよいようでしたら、以下に署名していただき、あなたが初回のカウンセリングに来られた旨、私達からその方にお伝えすることをご承認ください。以下の内容をご確認ください。1)あなたは署名しないことも可能です。その場合でも、こちらで受ける治療に何らの影響ありません。2)あなたが初回のカウンセリングに来られたこと以上の内容は、あなたの同意なしに伝えることはありません。**あなたにカウンセリングを紹介した教職員に私達から伝えることに同意する場合にのみ、以下の欄に記載ください。:紹介者の氏名・所属・連絡先とあなたの名前の署名を記載したことをご確認ください。**

教職員氏名\_\_\_\_\_

部局\_\_\_\_\_ 電話番号\_\_\_\_\_

**私は上の記載内容を読み、上記に記載した人にこの情報を開示することに同意します。**

\_\_\_\_同意します 署名\_\_\_\_\_

カウンセリングセンターのスーパーヴァイザー

〇〇 〇〇 (個人名+役職名)

〇〇 〇〇 (        "        ) (筆者注:計9名のスーパーヴァイザーが列挙されている)

上記2つのインフォームド・コンセントの例を見てみると、一口にインフォームド・コンセントと言っても、その学生相談機関の体制・性質・あり方や、どのような内容をインフォームド・コンセントに盛り込むかについての考え方などの違いによって、様々なバリエーションがあることを感じる。もちろん、インフォームド・コンセントが、来談者が自らの意思で決定するために、十分な説明を受け、それにもとづいて同意するに至るまでの、相互的、かつ創造的なプロセスであるというのは、どのような場においても共通していることだろう。ただ、今述べたそれぞれの機関によって様々な違いがある中で、基本的な内容は押さえつつも、それぞれの場にふさわしいインフォームド・コンセントのありようを実践していることが窺える。

リッチモンド大学の学生相談機関(Counseling and Psychological Services(CAPS))のインフォームド・コンセントのフォームを見てみると、おおまかに、守秘について、カウンセリングの概要、カウンセリングの効果、同意の取り消し、の4点が示されている。文章の主語は基本的に学生相談機関側であり、同意書というよりは、機関において提供されるカウンセリングの中身について、一般的な説明から踏み込んだ、より詳細な実質的な説明をこのような形で行っている印象である(ちなみに、このフォームには来談者の署名欄は見られない。とはいえ、これはあくまでホームページ上で確認できた範囲であり、実際の場面における運用がどのようになっているかまでは確認できていない)。さらに、このインフォームド・コンセントの背後には、守秘や情報の開示に関するより詳細な指針「CAPS Privacy Practice Notice」が存在していることにもふれられており、

このインフォームド・コンセントのフォームは、かなり内容を絞り込んで、来談者がカウンセリングを受ける際に説明を受け同意を行う最低限の内容を提示しているように思われる。本稿で示すことができなかった海外の他の大学の学生相談機関におけるインフォームド・コンセントのフォームには、かなりの分量で、非常に詳細に記述・記載されているものも散見され、ぱっと見、それに一通り目を通すだけでもなかなか骨が折れるなあ、という感を抱くものも少なくなかった。インフォームド・コンセントを考える際には、もちろん利用者に幅広い情報を提示し、丁寧に説明し、その上で利用者の同意を得る、ということが欠かせないことではあるが、一方で、ただ単にあるだけの情報を示せばいいというものではない、ということも同時に感じさせるものであった。たとえば、日常でも、何かしらの電化製品を買った際、説明書の最初に書かれている大量の注意書きに目を通そうとはなかなか思えないし、何らかの契約を行った際に受け取る約款も、非常に細かい字で延々と書かれているものを隅から隅まで確認しようとはとても思えない。同様に、学生相談機関におけるインフォームド・コンセントにおいても、どのような情報を、どこまで、どのような形で来談者に示すか、ということについて、十分に配慮・検討を行うことが欠かせないだろう。また、そうしたインフォームド・コンセントに関して提示する内容・提示の仕方について配慮・検討を行う作業・過程そのものが、来談者に対するインフォームド・コンセントの質を向上させるようにも思われる。

もう一つのロチェスター大学の学生相談機関（University Counseling Center(UCC)）のインフォームド・コンセントのフォームを見てみると、こちらはいかにも同意書であり、基本的に主語は「I（わたし＝利用者）」で書かれていて、同意した旨を示すための署名欄も記載されている（なお、多くの文章が、「I understand that～」となっており、それが分かるようにあえて直訳調で「～を理解しています」と訳した）。こちらは、先程のリッチモンド大学の学生相談機関におけるインフォームド・コンセントのフォーマットと違って、（もちろん断ることは可能とはなっているが）来談者にとってかなりの負担、あるいは場合によっては不利益となりかねないような内容（特にビデオ録画について）にもふれている。こちらの機関には、医師も在籍していて投薬治療も行われているようであり、また訓練期間中のスタッフも従事している様子からして教育訓練機関も兼ねているようであり、様々な性質・役割を担っている関係から、そうした性質・役割に伴って行う可能性のある事柄についても最初の段階で提示・説明して同意を得るべく、このようなインフォームド・コンセントの形になっていることが推察される。また、学内教職員から紹介されて来談した来談者に対しては、紹介した教職員に来談者がカウンセリングにやってきたことを伝えてもよいかについて同意を得るための項目を別立てで記載しており、守秘の徹底と、情報を第三者に伝達する際の姿勢（あらゆる情報は来談者の同意を得てから初めて第三者に伝達すること）をこのような形で最初の段階で明確に示していると言えるだろう。

## 5. 海外の大学の学生相談機関におけるインフォームド・コンセントを概観して



このように2つの大学の学生相談機関における全般的なインフォームド・コンセントの例を見ると、形はどうあれ、日本においても、どのような心理臨床の場、あるいは学生相談機関であっても、基本的には何らかの形で行われていることとも思われる。しかしながら、本稿で見てきたように、海外の大学の学生相談機関においては、それを具体的な文言で、あるいは文書の形式で明確に示し、その上でおそらく面接の場でも説明を行い、場合によっては同意の意を来談者の署名によって表明するという、その手続きを具体化・明確化することで、「説明」と「同意」という重要な一連の過程をあいまいなまま行うのではなく、その過程そのものを臨床場面を通じて検証・検討・改善に耐えうるものとなるよう精緻化していく努力と模索が行われているとも言えよう。もちろん、背景となる文化や人々の考え方・ありよう、法律的な基盤等によって、必ずしも本稿で見てきたようなインフォームド・コンセントのあり方が日本においてもそのまま適用されるのがふさわしいとは限らないかもしれない。ただ、特に学生相談機関において、学内外の諸関係者・関係機関との連携が必要となったり求められることが増大している状況の中で、守秘のあり方（特にその限界や学内関係者・親等との情報共有についての指針等）、記録の保管・管理（や来談者のアクセス権の範囲）、臨床実践を通して得られた知見をもとに研究へとつなげる際の守秘義務との兼ね合い等、これまでは各現場、各カウンセラー（セラピスト）がそれぞれの持ち場で試行錯誤や模索してきたことを、より具体的な形で検討していくことが求められる時代になってきていることも確かであろう。そうした取り組みの一つのきっかけとして、本稿で見てきたことを今後に向けてつなげていくことが重要であろう。

## 6. おわりに

本稿では海外の大学の学生相談機関におけるインフォームド・コンセントの動向について概観してきた。しかしながら、前項でも述べたように、その中身、例えば、守秘義務の具体的な運用の実際についてや、記録の保管・管理および来談者のアクセス権について、研究への臨床データの利用について等、現状において現場でより実践的な難しさや迷いを感じている事柄についてまでふれることができなかった。また、日本の大学の学生相談機関においても、インフォームド・コンセントのフォームを作成しすでに用いている機関があったり、学生相談機関のホームページ上で守秘に関しての方針を掲載している機関も見受けられる。本稿ではそうした日本国内の学生相談機関におけるインフォームド・コンセントに関わる取り組みの現状についてもふれることができなかった。今後の課題としたい。

最後に、心理臨床、あるいは学生相談におけるインフォームド・コンセントを考えるにあたっては、「インフォームド・コンセントの意義は、クライアントの自己決定を尊重すること、ならびにカウンセリングの開始に際してのクライアントとカウンセラーの信頼関係形成の基盤をつくることにある」（出口，2009）ことを常に肝に銘じていたいものである。



## 文献・資料

- American Psychological Association (2010) *Ethical principles of psychologists and code of conduct with the 2010 amendments* (:<http://www.apa.org/ethics/code/principles.pdf>).
- British Association for Counseling and Psychotherapy (2013) *Ethical Framework for good Practice in Counseling and Psychotherapy* (: [http://www.bacp.co.uk/ethical\\_framework/](http://www.bacp.co.uk/ethical_framework/)) .
- 出口治男監修 (2009) 『カウンセラーのための法律相談－心理援助をささえる実践的Q&A』新曜社.
- Faden, R.R. & Beauchamp, T.L. (1986) *History and Theory of Informed Consent*, Oxford University Press. (酒井忠昭・秦洋一訳 (1994) 『インフォームド・コンセント－患者の選択』みすず書房).
- 一般社団法人日本臨床心理士会 (2009) 「一般社団法人日本臨床心理士会倫理綱領」.
- 伊藤直樹 (2007) 「インターネット上におけるアメリカの学生相談機関の情報発信に関する研究：アメリカの学生相談機関の特徴の分析と日本の比較」心理臨床学研究, 25(3), pp.269-280.
- 水野修二郎 (2006) 『最新カウンセリング倫理ガイド－ACA倫理綱領対訳とAPA倫理綱領全文訳－』河出書房新社.
- 日本学生相談学会 (2013) 「学生相談機関ガイドライン」.
- 杉原保史 (2011) 「世界の主要大学の学生相談機関はホームページをどのように用いているか？」京都大学カウンセリングセンター紀要, 第40輯, pp.1-15.
- The website of Caltech Counseling Center, California Institute of Technology (: <https://counseling.caltech.edu/>) /*Consent for Release of Information Form* (:[https://counseling.caltech.edu/documents/35-consent\\_form.pdf](https://counseling.caltech.edu/documents/35-consent_form.pdf)).
- The website of Counseling and Psychological Services, University of Richmond (: <http://wellness.richmond.edu/offices/caps/>)/*Informed Consent for Counseling Services at CAPS* (:<http://wellness.richmond.edu/appointments/caps/consent.html>).
- The website of Mental Health & Counseling, MIT medical, Massachusetts Institute of Technology(: <https://medical.mit.edu/services/mental-health-counseling/>)/*Authorization for Release of Protected Health Information (Mental Health Record) by MIT Medical* (:<https://medical.mit.edu/sites/default/files/MR-byMIT-MH-1011.pdf>).
- The website of University Counseling Center, University of Rochester(: <https://www.rochester.edu/ucc/>)/*Informed Consent for Assessment and Treatment* (:<https://www.rochester.edu/ucc/forms/files/consent.pdf>).
- The website of University Counseling Service, University of Cambridge (:<http://www.counselling.cam.ac.uk/>)/*Confidentiality, Data Protection & Complaints*( : <http://www.counselling.cam.ac.uk/general/confidentiality>).